

こうとう民報

2015年10月号 131

江東区の職場・地域、議会などくらし、平和を守る運動をご紹介します。

発行 とうとう民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/



10月8日、江東区職労第64回定期大会が砂町文化センターで開催されました。

内田敬三執行委員長は、江東区は6月に50万都市になり職員一人当たり区民は、特別区平均146・7人に対し江東区は178・8人。生活保護のケースワーカーは最下位の配置です。この状況に加え、国の政策に追随した人事評価制度を強化し、一層働きにくくしようとしている。

また、公共一般江東支部と秋季年末闘争を共同してたか、臨時職員の時給が20円引き上げ950円に、非常勤職員は臨時の時給率で2.1%引き上げられることになり、7年ぶりの賃上げとなった。

していることなどを批判しました。大会は、新執行部に執行委員長・西野智子、副執行委員

一人ぼっちの労働者をなくそう！
地域労組ごとうが定期大会開催

9月26日地域労組ごとうは、1年間で35人が新たに加盟し、213人の現勢で第7回定期大会を開催しました。



今年度は、残業代未払い問題をきっかけに12人が加盟し、職場に分会を結成したことが特徴です。

大会では、中小企業の福利厚生活動として共済制度の活用働きかけやこの活動から組織拡大に取り組むことを決めました。



自公政権による戦争法の強行採決は許せません。区議団は「平和都市宣言」を行った自治体として憲法と民主主義を守る役割を果たすよう求め、「戦争法廃止」の運動を広げ、区民のみならずと国民連合政府の実現に頑張る決意です。

世論無視の区長答弁

区議会第3回定例会では、山崎区長の「法案(安保法制)は平和の抑止力」「江東区平和都市宣言の主旨に沿った」と

「この見解に対し、「憲法違反」との学者の声、反対する国民の運動の高まりなどについての見解を求め、さらに日米ガイドラインでは、区長の名において職員や区民を戦

【第3回定例会】

戦争法に追従する山崎区政

争に巻き込む協力が義務付けられていることについて見解を求めました。

区長は「専守防衛の範囲内」「9条の下で許容される自衛の範囲内」とし、ガイドラインについても「自治体職員や

民間人の戦争動員にはならぬ」と、根拠の無い答弁で区民世論無視の姿勢です。

与党自・公が質問制限

世論の高まりの中で追い詰

められている自民・公明の与

党議員は、わが党議員の本会議質問発言通告が「戦争法案

に対して、「戦争法案ではない」「平和安全法制」にせよとせまり文言修正を強行しま

また教育問題でも「教育勅語」を持ち上げたり、教科書採択はじめ教育に首長の介入を求める質問も相次ぎました。

憲法を壊し、民主主義を破壊する流れとの闘いは議会内でも熾烈です。区議団一同、みなさんと力を合わせて頑張り

ます。

した。また続く決算審査特別委員会では、「戦争法案ではない」「決算に関わりない発言はするな」と猛烈な野次を飛ばし審議が一時中断、理事会を開く中で「発言をあと2分で終了するように」と何の理由も無く発言に制限をかける決定を行いました。

「戦争法(安保法制)廃止の国民連合政府」の実現をよびかけます。文書と共に申し入れがありました。

潮騒

炎暑の夏に始まり寒露の節気を過ぎて「戦争法」廃止をめざす熱い市民運動は広がってきています。

ある日テレビをつけると、銃剣を構えて突撃する女性自衛官たちの映像が目にとびこんできました。涙の修業式の後に彼女が勤務するのは、おぞましいイービス艦です。

純労働者組合と南葛労働会

概説

江東の歴史 (49)



大正の労働組合の中心は、1912(大正元)年創立の友愛会です。江東では翌13年10月、平野鉄工所や東京電気の職工で江東支部が組織され、事務所は東大工町(白河)におかれました。1915年には、東京モスリンの職工たちが本所支部、大島の東京スプリングで働いていた平沢計七らが大島支部をつくり、ほかに、猿江に深川支部、深川ガス支部、城東支部、亀戸の小松川支部、大島の小名木川支部などがあり、月島の石川島造船所では京橋支部を結成しました。

1919(大正8)年、友愛会が大日本労働総同盟友愛会になると、平沢は亀戸、大島の支部を集め、大島製鋼、日本鋳鋼、日立製作所等の職工らを中心に城東連合会をつくり、会長に平沢、書記に戸沢で、五ノ橋に事務所をおく友愛会で最大の組織でした。この亀戸支部に永峰セルロイドで働く渡辺政之輔がいました。

1920年10月、平沢と渡辺の指導権争いで、平沢らは友愛会を脱退し純労働者組合をつくります。この組合は、共働社(生協)、労働学校、労働金庫など先駆的な運動をすすめ、五ノ橋会館で労働劇団の旗揚げ公演をおこない、小山内薫などの演劇人を感激させました。

1922(大正11)年10月、渡辺らは南葛労働会を結成。亀戸3519番地に事務所をおき、亀戸、大島、吾嬬、小松川に支部をもつ戦闘的な組織でした。城東区ではアナーキズムの傾向の純労組とボルシェビズムの南葛労働会が活動することになります。南葛労働会の川合義虎は23年創立の日本共産青年同盟の初代委員長になります。南葛労働会は、革命的理論に根ざした固い信念をもち、勇敢で犠牲的、献身的な南葛魂で全国に知られていました。

1917(大正6)年のロシア革命に刺激され、「労働者街に住みたい」と亀戸にとびこんできたのは大杉栄です。妻の伊藤野枝とともに17年12月から翌年7月まで、亀戸2400番地に住んで、月刊雑誌「労働新聞」を発行しました。

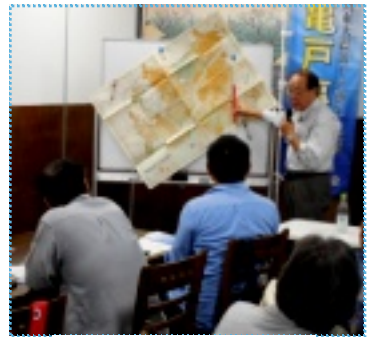
権力犯罪を許さない決意新たに

亀戸事件フィールドワークに30人



事件当時の跡地を視察する参加者

「亀戸事件」から92年。10月3日午後、事件の現場を回るフィールドワーク(日本国民救援会などの実行委員会主催)が、千葉県や神奈川県からの参加者も含め30人が参加しておこなわれました。



解説する坂本昇氏

亀戸駅北側の亀戸梅屋敷に集合。事件の事前学習では、あぜ上三和子都議から挨拶があり、高校教師・坂本昇氏(歴史教育者協議会副委員長)が講師とガイドを務めました。坂本氏は明治時代の亀戸周辺地図を持参して現在の街並みと比べながら、当時の社会運動の高揚と日朝連帯の運動が芽生えてきた時期という社会背景を解説し、亀戸事件はなぜ起きたかではなく「なぜ引き起こされたのか」と言いたい」と強調しました。

飲食街や住宅地の路地を回りながら、事件当時の亀戸警察署、労働運動・政治運動の指導者だった渡辺政之輔宅、南葛労働会事務所(2階が犠牲者の一人、川合義虎の自宅)の跡地などを訪ね、事件の真実を知り、権力による言論封殺や市民運動弾圧を許さない運動を広げる決意を固めました。

1時間半の行程中、「亀戸事件」ののぼり旗がよく目立ち、ガイドの説明を通りかかると人も立ち止まって聞く姿もありました。

「介護」では認定度合の不平、介護の保障が悪くなった、などの問題点が出されました。

その他、健康や住まいのこの不安、マイナンバー制度についての不安、TPPの問題など、安倍政治への怒りが語られました。

「愛国心」をすりこむ意図をもって育鵬社も参入する見込み

江東区中学校教科書採択を考える会

子どもたちの未来を守る共同を!

10月15日、総合文化センター会議室で江東年金者組合(大島・亀戸地域)の「おしゃべり会」が開かれ、15人が参加しました。

侵略戦争を美化する教育再生機構編集の育鵬社の歴史・公民教科書を採択させない取りくみをすすめた「考える会」は、9月30日の第6回世話人会で活動のまとめと今後の方針について議論しました。



「医療」は診療報酬制度の改悪でますます医者にかかりにくくなる。「戦争法案」を廃案にできなかったことは残念だが、若者が立ち上がったことは大きい。「アベ政治を許さない」の自家製ス

「戦争法」を強行する安倍政権のもとで、押しつけられてきた育鵬社教科書の全国の採択は、歴史・公民とも占有率目標10%達成を許しませんでしたが、組織が弱くて取り

組みがなされなかった地区で、大阪市(18500冊)などの都市部での新規採択がすす

められた結果となりました。(歴史の占有率は4%台から6.5%へ)

- 行事日程
11月3日(火)祝日13時〜16時 第7回江東なんでも相談会
11月6日(金)18時30分 車座対話集会 (ぶっ潰せ江東行動)
11月7日(木)9時45分 (古今亭菊千代) 総務局市民センター6F
11月10日(日)13時 第27回高齢者集会 総務局市民センター
11月17日(日)18時30分 原爆と人間展「豊洲シビックセンター1F」
11月23日(土)祝日10時 生活と健康を守る会 第43回大会
11月28日(土)14時〜16時 安本法制廃止直伝(ぶっ潰せ江東行動) 豊洲シビックセンター